

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	3470204680
法人名	株式会社 ウエル
事業所名	グループホーム こもれび
所在地	広島県広島市佐伯区五日市七丁目8番41号 (電話) 082 - 943 - 1165
評価機関名	非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南四丁目46 - 9
訪問調査日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(21年3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25	常勤 12 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 5.1	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1階 ~	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	有(200,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	600 円	おやつ 夕食費に含む 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	11 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低 70 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石原脳神経外科、平野歯科、中野皮膚科・泌尿器科、三宅外科・内科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中に建てられた施設でデイサービスや居宅介護などの介護事業が行なわれているところのグループホームである。3ユニットあるが入居者の特長などをよくとらえておられ、それぞれのユニットに特徴が出ている。病院も含めた連携体制がよくできており、医師がすぐ駆けつけてくれる体制や、他の事業所の空き時間をうまく利用しての食事会が行なわれている。地域の人への訪問もある。職員同士のコミュニケーションはよくとられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	グループホームとしての特徴をよく理解しておられ、入居者の状況によりホームの運営をしておられる。家族や外部の人の声も運営に生かされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が一緒になって評価を行い、現状をそのまま見てもらう姿勢がよく感じられた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族や地域の人々の声を聞く場としてうまく活用されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	月に一度の家族への連絡、家族法文字の家族との話し合い、運営推進会議を利用した家族の声を聞くなどをとおして運営に反映する体制がとられている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人への訪問があり地域の防災組織に参加するなど地域にとけこんだ運営を行なっている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームとしての理念を作り玄関などに掲げている。また、ユニットごとに目標を作り掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいた個人ごとの目標を作り、それを全職員が共有して介護活動の基本にしている。申し送り時に理念に基づいた報告をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っており、地域の人との訪問がある。地域の人からの相談もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が参加して話し合っ作成されている。外部評価は職員は全員で検討会をしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域の人との参加で2ヶ月に一度開催されている。家族からの相談が多くある。		

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括介護支援センターと認知症アドバイザーの研修会を実施した。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族へは手紙を出している。家族同士が連絡をとっておられ、推進会議ではよく意見が出る。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族が訪問されたときは声かけをして意見を聞いている。運営推進会議でよく意見が出ている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職者は少ない。フロアーごとの異動は年に1名づつ行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	去年は2名が介護福祉士に合格した。内部での研修を行なっている。外部研修にも希望すれば行かせている。一人ひとりの目標とその成果を社長まで報告している。		職員の目標とその成果については管理者と話し合うことが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者研修では他の事業所とよく交流をしている。		

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	施設見学、体験入所を実施している。各フロアで雰囲気異なるのでそれに合わせた入所をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	外出はマンツーマンで行なっている。外出にはよく出かけている。職員と入居者が一緒になった笑い声が聞かれた。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの思いをよく知り、それに合わせたケアを行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	担当者会議や月1回のフロア会議で話し合って計画を作成している。介護サービス記録書に丁寧に記録してある。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	6ヶ月ごとに見直しはされている。急変時には見直しが行われている。サービス担当者会議で担当者の意見が出されそれにより計画書が作られている。		

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	企業内のデイサービス施設の休日を利用して月1回全員が食事会を行なっている。看護師は必要によりディとグループホームの対応をしている。病院とはいつも連携をとっており、いつでも駆けつけてくれる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週健康相談日を設定しており医師の訪問を受けている。緊急時にはすぐ駆けつけてくれる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とはよく相談をしており、介護では難しくなったときは入院措置としている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの思いを大切にして介護に努めている。個人情報職員室に置き他人には見られないようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所時の気持ちを大切にしており、気持ちが崩れたときにはそれを優先して対応している。		

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回は希望による食事会を開催している。(そのときは全員の参加である。) 食事についての希望調査をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の楽しみが盛り上がる働きかけをして入浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	体操をしたり歌ったりして楽しく過ごせるようにしており、外出やドライブ、野菜作りを行なっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は一人ひとりに対応した取り組みを行っている。ドライブにはよく出かける。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には自由に出入りでき、ベットには柵はない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回開催している。地域の防災訓練にも参加している。訓練後の反省会をきちんとしておられる。		

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立で食事を作っておられる。食事量水分補給をきちんと確認して記録しておられる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共用空間でゆったりとした応接セットやテレビが置かれてあり、昼間はほとんどここですごされる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、冷蔵庫、仏壇、たんすなど入居者のものが持込まれている。ベットがいやな人にはタタミがしかれている。		